

病理検査室の作業環境の構築

田野 光敏¹⁾ 佐藤 愛海¹⁾ 青柳 真一¹⁾ 諏訪部 桂¹⁾ 美原 盤²⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 検査科 2) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長

【はじめに】平成 27 年 1 月、新棟の増築にともない、新たに病理検査室が移転した。従来の病理検査室は屋外の離れた倉庫の一角を改築し作られたもので、組織の切出し作業は院内の解剖室で実施していた。

病理検査室建設において最も重要視したのは、特定化学物質障害予防規則の改定により 2009 年 3 月から規制が強化されたホルムアルデヒド（FA）の管理であり、切出し作業中の FA による健康被害の軽減と 6 月以内ごとに行われる作業環境測定に対応できる設備の構築と作業方法の確立が求められた。

【目的】新病理検査室内に建設された切出し室での FA に対する作業環境測定において第 1 管理区分を取得できる作業環境を構築する。

【設備】新病理検査室には新たに切出し室を作り、FA の取り扱いはこの部屋のみとした。切出し室には床面近くに換気口を設けて 24 時間換気を行うこととした。切出し台には下降流フッシュアップ型換気装置（興研：フッシュアップ PS-21H）を設置、流し台はシンク内から排気できるものを特注

し併設した。

【作業方法】切出し前の組織は、FA 保管庫にて FA の入った密閉容器で組織固定終了まで保管。切出し作業時には切出し室へ密閉容器ごと組織を移動。流し台から切出し台への組織の移動時は、密閉容器に入れて移動させる事で FA ガスの漏れを抑えた。切出し作業は作業者と補助者の 2 名で行い、作業中は作業者がフッシュアップの範囲外に手を出さないようにし、FA ガスが作業区外に流出しないようにした。作業環境測定に関しては外部の測定業者に委託した。

【結果】建設後、2 度にわたる作業環境測定において、第 1 管理区分を取得することができた。

【考察】FA の管理濃度は 0.1ppm と低値であるため管理が難しいが、適切な設備と作業方法により安全な環境を作ることができる。病理検査室の適切な作業環境の構築は、職員にとって健康被害の予防のみならず、FA 曝露による精神的ストレスの軽減にもつながった。法令を遵守し職員の健康を守ることは、病院にとって重要なことである。

連絡先：美原記念病院 検査科 0270-24-3355（代）